

議員提出第14号

吉川高校全日制の存続を求める意見書

吉川市議会会議規則第13条の規定により、上記意見書を別紙のとおり提出する。

平成21年10月27日

提出者 吉川市議会議員 日暮 進

賛成者 吉川市議会議員 佐藤 清治

〃 互 金次郎

〃 稲垣 茂行

〃 安田 真也

〃

〃

〃

吉川市議会議長 高崎 正夫 様

提案理由 口頭

吉川高校全日制の存続を求める意見書

平成21年10月、埼玉県教育委員会は吉川高校全日制・定時制と周辺の高校の定時制を統合して、新しく昼夜開講定時制独立高校をつくるという案を市に提示しました。このことは、吉川市民に大きな衝撃を与えております。

県の高校再編整備計画の方針により、平成17年度には戸田翔陽高校、20年度には狭山緑陽高校、22年度には吹上秋桜高校が、全日制の課程と周辺の夜間定時制の課程を統合し、昼夜開講の定時制独立高校として、順次開設されてきております。これらの新しいタイプの定時制高校では、学ぶ意欲と熱意のあるものがいつでも学べる新しい学校として数多くの生徒が学んでおり、大変意義深いものと認識しております。

しかし、これらの3校が置かれている自治体と吉川市では、状況が全く違います。戸田市には1校、狭山市には3校、鴻巣市には2校、全日制高校があります。しかし、吉川市では、1校しかない吉川高校の全日制の課程が廃止されると、市内に全日制の高校は全くなくなってしまいます。これは、県内40市の中で吉川市だけです。なぜ、吉川高校の全日制を廃止するのかという思いを数多くの市民が抱いております。

今年度の吉川高校1年生200名のうち市内中学校出身者が83名で41.5%を占めており、さらに、吉川市の小中学生の人数は増加傾向にあります。市内の全日制高校で学びたい子どもたちにとって、昼夜開講独立高校がその代わりになるものでないことは、明らかなことでもあります。この計画が進められれば、市内の子どもたちの教育機会を奪うことにもつながります。

吉川高校は、昭和46年に開校し、39年の歴史を持つ伝統校であり、これまで、生徒たちは、市内小中学校に出向いて児童・生徒と交流を深めたり、市民まつりに参加したり、自分たちの通う通学路の清掃活動を行うなど、地域に密着した教育活動に取り組んでおり、高校生の若い力が市の活性化にも大きく貢献しております。

よって、吉川市議会は、吉川高校全日制を存続させることについて、改めて強く求めるものであります。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき意見書を提出します。

平成21年10月27日

埼玉県吉川市議会

提出先

埼玉県知事

埼玉県教育委員会教育長